

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和元年度第3回）

1. 日 時 令和2年1月16日（木）12：59～15：00
2. 場 所 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. 出席者 池上委員，小笠原委員，北橋委員，工藤委員，久保田委員，坂井委員，高原委員，辻委員，松岡委員
（五十音順）
学長，理事（教育・財務担当），理事（研究・産学連携担当），
理事（国際・評価担当），理事（総務・労務・施設担当），
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 林田監事，副学長（学生・附属図書館担当），副学長（入試・広報担当），
副学長（情報担当），教養教育院長

5. 新年の挨拶

学長から，会議に先立ち新年の挨拶として，昨年取組と今年抱負について，挨拶があった。

なお，委員から次の意見があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 教育・研究・社会連携・管理運営について，十分に推進しているが，教員の不祥事への再発防止にむけて着実に取り組んでほしい。

△： 全学における教員への不祥事の再発防止に向けて，迅速に対応したい。
外部の有識者の協力を得ながら，研修など改善を行っていききたい。

6. 会議成立

構成員18名のところ，17名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

7. 議事録の確認

令和元年度第2回経営協議会（令和元年11月18日）の議事要旨の確認について説明があり，了承された。

8. 報告事項

（1）令和2年度国立大学法人運営費交付金の予算案等について（資料2）

理事（教育・財務担当）から，令和2年度国立大学法人運営費交付金の予算案等について報告があった。

文部科学省から，本学への令和2年度国立大学法人運営費交付金予定額の伝達が届いていないため，今回は国立大学関係予算（案）の概要説明である旨の補足説明があった。

なお，委員から次の意見があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 経済的支援について，今まで授業料免除対象者だった者が，新制度で

は授業料免除対象とならないような事態が起こるのか。

△： 従来であれば授業料免除となっていた人数に対して、新制度においては、対象者が減少することになる。これまで国立大学では、新制度の対象者より多くの人数が授業料免除対象となり、運営費交付金における一定の割合を原資とすることができた。その原資に依じて、授業料免除対象者を選考していたが、新制度は、国が直接支援し、また、授業料免除対象となる所得制限が明確となり、基準を上回る者は非対象となった。したがって、新一年生に対しては、これまでの授業料免除ができなくなるという状況である。大学独自で、新一年生に対してもこれまでの授業料免除を行うことも検討したが、現在の財務状況を勘案し、やむなく新制度のみの授業料免除とする予定である。

(2) 平成30事業年度に係る実績に関する評価結果について

(資料3)

理事(国際・評価担当)から、平成30事業年度に係る実績に関する評価結果について報告があった。

なお、委員から次の意見があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

○： 評価項目を1つ上げるために、これをやれば上がる、というものがあるのか。この評価があがることでの影響は、どのようなものがあるのか。

△： 何かをすれば評価が上がる、というものはない。影響については、これ自体の評価によって直接的に影響があるわけではない。国立大学の動きを可視化することの一環であり、社会的に、どのように評価されているか、という目安になっている。

評価結果を真摯に受け止め、改善に向けて邁進していきたい。

(3) 入試改革への取組について

(資料4)

副学長(入試・広報担当)から、入試改革への取組について報告があった。

なお、委員から次の意見があった。

(○：学外委員，△：学内委員等)

○： 外国の入試でも同様な入試が行われているのか。

△： 各国において状況は異なるが、アメリカの入試では、1年間、面談を通しての選考や、一括テストが年に複数回行われているが、日本の入試とは異なっている。

9. その他

(1) 学生の海外派遣等について

本学における学生の海外派遣等について、説明があった。

①所 属：工学府博士前期課程 電気電子専攻 電子工学コース 三浦創大
紹介内容：海外インターンシップ(タイ)

②所 属：工学府博士前期課程 物質専攻 マテリアル工学コース 浜島亜美

紹介内容：長期派遣（フランス ダブルディグリープログラム）

説明後、外部委員からは、次の意見等をいただいた。

（○：学外委員等，△：学生）

- ： 研修期間の4週間の長さについてどう思うか。周りに海外インターンシップに行きたいが、行けないという学生について、何か理由があると思うか。
- △： もっと長い期間の方がよかったと思う。海外インターンシップの時期に国内のインターンシップがあり、国内の企業も見たいという学生が参加を見送っているようである。夏に開催している海外インターンシップの時期をずらす等すれば、海外インターンシップに行く学生が増えるのではないか。
- ： 研修の間に、現地であるタイ語は、どの程度習得したか。ビジネスの際には、英語も使うが、現地の言葉で話すことも重要である。
- △： 挨拶など含めて100前後の言葉を覚えた。

- ： フランスの授業を受けて、九工大の授業に対する提案等はあるか。
- △： 九工大の授業の印象は、理論をしっかり学んだ上で応用を少し学ぶような印象があるが、フランスの授業は、理論と応用が同じくらいの割合か、応用の方に力を入れている印象があった。九工大の授業において、現場での課題など具体的な内容を学ぶ、応用の講義があれば、学生は、理論かつ応用を兼ね備えていけるのではないか。
- ： 海外留学の相談を受けるが、必ず行くべきであると答えている。周りの学生にも海外留学を進めてもらい、仲間を増やしてもらいたい。会話がうまくいかないなどの不自由な事が糧となり、モチベーションアップとなったと思うため、あえて不自由な事を自分で課して成長してほしい。また、留学することによって、入社時期等について、何か感じることがあるか。
- △： 新卒一括採用の現状において、留学やインターンシップを行う期間がないため、留学やインターンシップを思いとどまっている人が多いのではないか。

（2）令和元年度経営協議会の開催日程について

（資料5）

総務課長から、令和元年度の経営協議会の開催日程について説明があった。